

明石 加古川 高砂 学力テスト比較

高校学区が一緒になる

平成27年度入学の試験から、高等学校の学区が拡大され、明石・加印(東播)・北播が同じ学区になります。その中から、明石と競合が予想される加古川・高砂などの全国学力・学習状況調査(学力テスト)の結果を掲載します。

ただし、学力テストは特定学年の特定時期における調査であり、これだけで学力の優劣を測るものではありません。

明石は低くない

明石の学力は低いと言われてきましたが、学力テストの結果は良いものでした。これで安心するのではなく、更なる習熟のために学校として取り組む点、入試対策や進路指導において他市を見習う点、市教委として取り組む点などを市民に伝える必要があります。現状と課題、今後の取り組みについては、年頃の子供がいない市民でも気になるものです。

取り組み不足

以前にもチラシで取り上げたように、平成26年度の学力向上の取り組みは貧弱なものです。「わくわく算数教室」や「数学・英語応援団」などは、実施校も少なく、指導者はボランティア頼み、予算はわずか180万円です。

また、学校図書館法の改正により小中学校に学校司書を配置する自治体が増えている中で、明石市

先生が忙しいなら

は26年度から小学校の学校司書をやめました。「子供を核としたまちづくり」に教育は入っていないかのようです。しかし、まちづくりで最も力ギを握るのは教育です。

学力を上げるためには教員の力が欠かせません。ですが教員は、部活動、生徒指導、保護者対応や研修、事務作業などで多忙です。OECD調査では日本の中学校教員は勤務時間が34か国平均の1.4倍で最長であるが、授業時間は平均より短いとされています。

本来の業務である授業、研修、生徒とのコミュニケーションといった時間を確保し、心身に余裕を持つて指導できる環境が必要です。その方策として、校務支援システム(情報伝達や事務処理を効率化するウェブシステム)の導入や、事務補助員の雇用、部活動の外部委託などがあります。杉並区では土日の部活練習を外部コーチに委託している学校があります。大阪市も外部委託の方針を出しました。私は明石市でも部活動の種類や指導教員によって外部委託すること必要と考えています。



平均正答率(%)	小学6年生				中学3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
明石	63.9	49.3	78.0	60.1	77.4	67.9	66.2	43.7
加古川	62.1	49.3	77.0	58.4	77.1	66.7	64.8	41.8
高砂	61.3	49.6	77.1	57.4	76.2	64.1	62.7	38.7
兵庫県	63.3	49.9	77.4	59.2	76.8	67.0	65.9	43.8
全国	62.7	49.4	77.2	58.4	76.4	67.4	63.7	41.5

●結果は平成25年度全国学力・学習状況調査のもので、平均正答率(%)を掲載
●A科目は知識をB科目は活用を問うもの
●兵庫県・全国は公立学校の数値、私立学校は参加率が48%程度なのでこの表には入っていません